

### 第83回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成29年4月25日（火）13時30分～15時15分

2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】阿部正、櫻井泰典、田原博人、富田孝志、林由美子、深澤秀樹

【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、小沢喜仁、若井祐次、  
朝賀俊彦、鈴木典夫、阿部高樹、二見亮弘

〔オブザーバー〕 副学長：真田哲也、千葉悦子

監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者

【学外委員】斎藤美幸、清水潔、早川信夫、八島洋一、渡邊博美

5. 議 事

【審議事項】

(1) 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する  
検定料の免除について

【報告事項】

(1) 平成29年度入学試験実施結果について

(2) 中期計画変更の認可及び平成29年度計画の届出について

(3) 農学支援基金について

(4) 平成29年度学長裁量経費（機能強化対応経費）等の配分について

(5) COC/COC+事業活動報告について

(6) その他

議事に先立ち、中井学長から、今年度の新学外委員、学内委員の紹介があり、各委員より一言ずつ挨拶があった。

また、今回から紙媒体資料に変わり、タブレットを使用した資料の閲覧へ移行したこと及び操作方法等について学長室より説明があった。

【確認事項】

第81回、第82回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

### 【審議事項】

- (1) 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について

真田副学長から、資料1に基づき、東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除を今年度も実施することについて提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(以下、◇はその議題に関する学外委員からの質問・意見、◆は大学側の回答等を表す。)

◇経年的に見て、福島大学は他大学と何か違う点などはあるのか。また、震災から5年経っても申請が多いことは他大学にも共通するのか。

◆どの区分での申請なのか等、他大学のデータもあれば傾向が見えてくるかもしれない。本学では東日本大震災の区分での申請がほぼ占めている。

### 【報告事項】

- (1) 平成29年度入学試験実施結果について

真田副学長から、資料2に基づき、平成29年度入学試験実施結果について、確定入学者数の内訳等の報告があった。

- (2) 中期計画変更の認可及び平成29年度計画の届出について

中井学長から、口頭にて、大学院人間発達文化研究科教職実践専攻（教職大学院の課程）の平成29年4月設置に伴う中期計画の変更について、中期計画変更の認可を受けたこと及び中期計画の変更認可を受けて平成29年度計画を文部科学大臣へ届け出たことについて報告があった。

- (3) 農学支援基金について

若井理事・事務局長から、資料3に基づき、食農学類（仮称）設置を進めるにあたり、農学支援基金を立ち上げたことについて報告があった。

◇支援基金を開始することと同時に、受験生への周知の準備も平行して行わなければならないだろう。今は基金と学類紹介のパンフレットが分かれているようなので、学類と基金とが合わせて分かるパンフレットがあるといい。

◆検討を開始した時期等の関係から、現在は学類紹介と基金のパンフレットが分かれている。今後新たに作成する際には、2つの内容を盛り込んだものも検討していきたい。また、高校生向けのパンフレットなどはこれから検討を

開始する予定となっている。

◇パンフレットに情報をたくさん盛り込みたいことは分かるが、読み込まなくても、見てすぐ分かるような内容、また、キャッチフレーズのようなものがあると良いのではないか。高校生や保護者、同窓会など、対象に沿ったパンフレットを作成し、広報を広げていけると良いのではないか。また、個人が寄付した場合のメリットをもっと分かりやすく説明してあるといい。

◆現在は、同窓会へ基金の案内を郵送することを予定しており、また、県内外へ幅広く企業等にも働きかけていきたい。

(4) 平成29年度学長裁量経費（機能強化対応経費）等の配分について

若井理事・事務局長から、資料4に基づき、平成29年度予算の決定を踏まえて、平成29年度学長裁量経費（機能強化対応経費）等の配分を決定したこと及び内訳等について報告があった。

(5) COC/COC+事業活動報告について

三浦理事・副学長から、資料5のCOC事業関連資料に基づき、平成28年度のCOC事業活動などについて報告があった。

引き続き、小沢理事・副学長から、資料5のCOC+事業活動の概要について説明があり、詳細な内容については南COC+総括コーディネーターから説明するとの発言があった。

◇COC、COC+の活動や大学で行っている社会貢献活動が、大学の教育・研究の活動の中に組み込まれ、また、地域貢献から地域連携へと発展するようになると良い。さらに、地域連携の活動の中で、地域の人と学生がともに学ぶ社会人教育を含んだ教育ができるとなお良い。また、COCやCOC+事業を基幹となる学習としてカリキュラムに組み込み、学生がもっと学びたいと思うきっかけになるように事業を盛んに推進していけるといい。大学間でそうしたそれぞれの事業内容を学び合ってほしい。

◆COC事業だけでなく、学内では学類やゼミ単位でも様々な地域密着型プロジェクトを展開しているので、それらを全学的に把握していきたい。また、学生の3割が地域密着型プロジェクト実践に参加することを目標としていきたい。

◇COC+のキャリアサポーター事業では、弊社の若手職員も参加している。参加

した若手社員が学生から刺激を受け、また、大学との垣根が低くなったと感じている。

◇震災後は地域が若い力を必要としており、地域のニーズはある。また、受け入れた地域側も、学生に活動を説明する場ができることで、活動を整理する良い機会にもなっていると思う。

◇高校生にも、学校内にとどまらない活動を進めているという新聞報道を見たが、大学のこういった活動を高校など下にどんどん下ろしていき、人材育成プログラムのようなものを作ってほしい。

(6) その他  
特になし